

歴史、文化 見つめ直すとき

―平成とともに大学が に入っても流出してしま
スタートした。 う。いかに若者を地域に
開学した平成の初め 定着させるか。地方創生
は、日本は18歳人口がピ が言われるが、地域の柱
ークを迎えていた。大学 となるような人材育成が
進学率も20%台と低かつ 求められる。
た本県では、本学をはじめ ―「令和」に向けて地
め県内でも大学が続々と 域はどうあるべきか。
開学した。下越地域でも 平成は活性化に向け、
さまざまな面で発展が続 経済面が重要視された時
き、将来への危機感は薄 代でもあった。若者が地
かった。 域に対するアイデンティ
―高齢化、人口減少が ティーを持つためにも、
地域に影響を及ぼし始め 歴史と文化を見つめ直す
た。 仕組みや、文化的な価値
若者があふれていた時 観の多様性を受け入れる
代から、一気に自治体の 取り組みが必要だ。それ
消滅が現実味を増すほど が経済、観光の発展にも
になった。せつかく大学 つながっていく。

敬和学園大 山田耕太学長に聞く

1991(平成3)年に開学した敬和学園大(新発田市)。当初から約30年にわたり下越地域を見つめ続けてきた山田耕太学長(68)に「平成」を振り返り、新たな時代への展望を語ってもらった。



柱となる若者の定着が鍵